

# てとり

vol. **24**  
2026.3



つながり  
が紡ぐ、  
地域の物語

人と地域が織りなす新しい風景

**Cinema Door**  
「映画」×「出会い」で、  
鳥取にときめきを。  
コミュニティセンター  
Cinema Door (いそがわ)  
2026年春、オープン!

映画 × 出会いで、  
鳥取にときめきを。

### 特集

#### 4 つながりが紡ぐ、地域の物語 ～人と地域が織りなす新しい風景～

##### 東部

Cinema Door  
×  
鳥取ふるさとUI会



##### 中部

琴浦ボレボレな暮らし  
×  
鳴り石の浜プロジェクト



##### 西部

奥大山の水洗い珈琲  
合同会社  
×  
NPO法人こうふのたより



### 高校生ing

#### 10 「もうちゅう11」の挑戦



当センターは、「ミラ・クル・とっとり運動」を推進しています！

「ミラ・クル・とっとり運動」とは、県内の活動者が互いにつながりあい、それぞれの活動の活性化と地域課題解決の推進を目指す運動です。運動に参画する個人・団体同士がフラットに、ゆるやかにつながるネットワークとして、「ミラ・クル・とっとりプラットフォーム」を展開しています。



# 鳥取で見つける、 新しい暮らしのかたち

鳥取県では近年、移住者数が高い水準で推移しており、令和6年度には過去最多を更新しました。特に40代以下の若い世代が大部分を占めています。こうした動きは、人口減少が進む地方において移住者は新たな地域の担い手にもなりうる存在でもあります。

今回は「ふるさと鳥取県定住機構」の井嶋事務局長と前田移住・定住推進室長のお二人に鳥取県内の移住者の推移や傾向についてお話を伺いました。



## 鳥取県移住者数の推移 傾向について

**前田さん** 鳥取県では令和6年度は1、784世帯2、393人の方が移住してこられました。

これは過去最多だった令和3年度の1、665世帯、2、368人を上回っています。コロナ禍においても毎年約2、100人以上の方が県内へ移住してきています。

移住者の約40%が20代以下の方です。次いで、30代が約20%、40代が約10%と続きます。



移住・定住推進室長  
**前田 典之さん**

## 鳥取が選ばれる理由 について

**前田さん** 移住を希望される方はそれぞれ理由が異なるので一概には言えませんが、地方の少しのんびりできる雰囲気や気に入って鳥取を選んできださる方が多くいらっしゃいます。都市部で働いていると通勤が大変だったり、どこか孤独を感じている方もいらっしゃるようで、人との

繋がりを感じたいと移住される方もいらっしゃると思います。

**井嶋さん** また、四季がはっきりしていて自然が豊かで、食べ物が美味しいといった理由で鳥取を選んでくださる方も多いように思います。



事務局長  
**井嶋 泰雄さん**

## 移住後の暮らしについて

**前田さん** 仕事は県内企業に就職される方が大半です。農業や林業などに携わりたいという方もいらっしゃると思いますが、法人に雇用される形でスタートを切っておられる方も多いです。

**井嶋さん** 鳥取は人口が少ないので、移住者の方は仕事でも地域でも担い手として大事にされており、それによって移住者の方も鳥取での仕事にやりがいを感じられるそうです。

**前田さん** 生活の面で言うと、最初は地域ならではのローカルルールに困惑する方がいらっしゃるようです。会合などの集まりやゴミ出しの

ルールなどに慣れるまで困ったというお話を聞くことがあります。

## 移住後の暮らしについて

**前田さん** 実際に来県して地域について知ってもらうことが重要と考えています。来県費用の補助をしたり、移住体験ツアーを企画して、移住希望者の方に鳥取に来てもらう機会を増やし、移住者のニーズと地域の実状との間でミスマッチが起きないようにしています。

その際、地元の自治体の方や地域で移住支援を行っているNPO等の団体とも連携をして移住希望者の方への対応に当たります。

また、移住に向けて鳥取県を知ってもらうことが最初の一步になるの

で、自治体の方や団体の方にもお声がけをして、県外開催の移住フェア等で鳥取県をPRする活動も行っていきます。

**井嶋さん** 今後はUターンの方をもっと増やしていきたいと考えています。そこで近年力を入れているのが、学生とその保護者向けの企業との接点づくりの創出です。

最近の若い方は就職先などを保護者に相談される方が多いと聞き、保護者にも鳥取の企業を知ってもらおうとバスツアーや採用担当者、若手社員との交流会などを企画しています。一度、進学等で県外に出てしまっても、また鳥取に戻ってきてもらえるように鳥取の魅力を発信したり、帰ってきてやすい環境の整備を今後も進めていきたいと考えています。



移住体験ツアーの様子



移住フェアの様子

公益財団法人 ふるさと鳥取県定住機構

Webサイト <https://furusato.tori-info.co.jp/>

鳥取市扇町115-1 鳥取駅前第一生命ビル1階 電話:0120-841-558

Webサイト





Cinema Door × 鳥取ふるさとU会

# 「好き」を形にし、つながりを広げてゆく

[東部] 鳥取市

仕事、住む場所、会う人。何か一つを変えるだけで、人生は動き出すという。

東京から鳥取へ移り住んだ金塚敬子さんは、同じ移住仲間たちとの出会いをきっかけに、「好きな映画を観たい」という思いから、ミニシアターを自分たちの手でつくるプロジェクトを立ち上げた。

想像もしなかったその挑戦は、少しずつ周囲を巻き込みながら、鳥取のまちなかに新しい人のつながりと、文化の風を運び始めている。



鳥取ふるさとU会

竹本 剛さん

Cinema Door

金塚 敬子さん

憧れていた古民家をリノベーションして住むことが決まり、2024年12月に移住。当時は知り合いもいなかったが、たまにお酒を飲みに行った店で、隣に座った人と意気投合。その相手が、移住者の交流を行う「鳥取ふるさとU会」（以下U会）のメンバーだった。

「月に一回開催している定例交流会に誘われて行きました。そこで移住してきて思うことなどいろいろな話をするうちに、『見たい映画が鳥取では上映し

「良い本屋やレコード屋があって、こじんまりとしたこの界限が好きでした。一人で飲みに行くのも好きなんですけど、会える人たちがみんないい人で、受け入れてくれる雰囲気がありました。空気や水、食べ物もおいしくて、暮らしやすそうだなと思いました」

「まさか」と思う出来事が、鳥取での新しい暮らしの中で待っていた。東京でコピーライターとして働いていた金塚敬子さんは、コロナ禍でリモートワークが広がったことをきっかけに地方移住を検討。頭に浮かんだのは、毎年親戚を訪れていた鳥取市だった。

街の雰囲気惹かれ、鳥取に移住





「いいんですよ」と嘆いていたら、会長の竹本さんに『手伝うから映画館を作ってみたら?』と言われました」

驚きの提案だったが、思い立ったら行動が早い金塚さん。

「彼女は、一週間後には10枚ものプレゼン資料を作ってきたんですよ。びっくりしました」と振り返る竹本さん。ひよんなことから、映画館づくりが始まった。

### 「映画が見たい」から始まった挑戦

移住後はのんびり暮らすつもりだったが、Uー会との出会いで大きく舵を切ることに決めた。移住からわずか2カ月後の2025年2月、ミニシアター「鳥取まちなかを映画で元気に!」プロジェクトが立ち上がった。

「映画は好きでしたが、まさか自分で映画館をやることは思っていませんでした(笑)。移住者のみなさんは好奇心も旺盛

で、行動が早い。驚くスピードで話が進んでいきました」

竹本さんからUー会のメンバーと合同会社を設立。物件を探し、クラウドファンディングで資金協力を呼びかけると、目標を超える460万円余りが集まった。金塚さんの背中を押そうと決めた竹本さんは嬉しそうに語る。

「リスクはもちろんあります。昔はもっと映画館があった鳥取で、文化をもう一度楽しめる場所をつくる挑戦っておもしろいじゃないですか。私も大阪から鳥取に来た人間なので、移住者の立場で鳥取のために何かをしたいという考えはずっと持っていたから、ぜひ協力したい」と思いました」

### 人がつながる、みんなの居場所に

もともと映画好きで、ミニシアター巡りも趣味だった金塚さ

ん。他県の運営者を訪ねて話を聞き、「作るならこんな映画館がいいな」と想像を膨らませた。袋川沿いの小さなシアターは席数が20席。1日3本程度、往年の名作から話題作、アニメーション、ドキュメンタリーなど幅広いジャンルの映画を上映する。映画を観ることはもちろん、コミュニティーの拠点になることも目指しているそうだ。

「私自身は、人の内面を描いている作品が好き。作品に対していろんな解釈ができて、それを人に話したくなるような作品も上映できたらいいですね。それだけでなく、あくまで、普通の映画好き」としているいる人が楽しめる映画を上映し、それについて語ることで、人がつながる機会を作れたらいいなと思っています」

館内に飲食スペースを設けたのは、そんな思いから。上映後には30分程度のカフェタイムをつくり、映画についてみんな

語ることができる時間にしたという。地域を巻き込んだ活動にしたいと、近隣保育園に声をかけて親子上映会を開くなど、積極的に動いている。

「人口が少ない鳥取では、一人一人の力の比重が大きくなるし、自分でも思ってもみなかった力が出てくるのかもしれない。自分では特別なことをしている感覚よりも、自分の気持ちに正直になれている感じ。それも鳥取で受け入れられていると感じるのが大きいかもしれません」

Cinema Doorのオープンは今年4月の予定。人生を変える映画の扉を開くこの場所から、鳥取のまちに新しい人のつながりが生まれてゆく。



### シネマドア鳥取合同会社

所在地/鳥取市川端2丁目119  
シアター所在地/鳥取市元町222  
連絡先/  
電話: 0857-30-2555  
メール: cinemadoor.tottori@gmail.com

Webサイト X



### 鳥取ふるさとU会

所在地/鳥取市川端2丁目119  
連絡先/電話: 090-5537-3688 (事務局)  
メール: tottori.ui@gmail.com

## 危機感から始まった 自主的な動き

丸みを帯びた石が並ぶ海岸に、波が打ち寄せるたび、「カラコロ」と心地よい音が響く。琴浦町の鳴り石の浜。地元の観光名所として打ち出している「鳴り石の浜プロジェクト」のメンバーでもある3人が出迎えてくれた。

「人口減少がすごい早さで進んでいるな、と感じるようになり、このままじゃいかんかなと思っていました。何かできることがあるんじゃないかと、まずは観光名所として鳴り石の浜を活かそうと思い、仲間たちと活動を始めました」

そう話すのは、地元で建設会社を経営する馬野慎一郎さん。仕事ではなく、ボランティアで地域づくりに関わり始めたのが15年前だった。鳴り石の浜と国道を挟んで自動車販売店を経営する上田啓悟さんも、地元の変化に危機感を募らせていた。

「山陰道がつながって、国道を通る車が減り、目に見えて経済が疲弊していきました。飲食店も、コンビニも、ガソリンスタンドもなくなっていく。『これはやばい』と思いました」

観光振興によるまちづくりが順調に進んでいく中で、琴浦町

## 琴浦ポレポレな暮らし × 鳴り石の浜プロジェクト

# ゆるい輪があることで、広がる出会い

## 【中部】琴浦町

そのまちに移り住む人にとって、受け止めてくれる地元コミュニティがあることは、大きな安心感につながる。地元の人たちが任意で構成する琴浦町の「琴浦ポレポレな暮らし」は、まさにそんな存在だ。

「ポレポレ」とはスワヒリ語で「のんびりやろう」という意味。琴浦に流れるゆるやかな空気感が、その輪を自然と広げている。



琴浦ポレポレな暮らし 代表

馬野 慎一郎さん

琴浦ポレポレな暮らし 事務局

出崎 隆晟さん

鳴り石の浜プロジェクト

上田 啓悟さん

に移住したいという声が増えてきた。この人たちを民間でもサポートできれば、来た人も暮らしやすいまちになるのではないかと、「琴浦ポレポレな暮らし」（以下「ポレポレ」）を設立。毎月1回の「ポレポレカフェ」を開き、移住希望者が地元の人たちと気軽に話ができる場をつくっている。

## 出会はどこにあるかわからない

馬野さんと上田さんらが続けてきた活動は、さまざまな縁を繋いできた。現在、ポレポレの事務局を務める出崎隆晟さんは広島県出身。6年前に琴浦町に移住し、上田さんの会社で働いている。もともと車が好きで、大学時代に友人とのドライブに使うオープンカーを借りようとネット検索していて、たまたま上田さんの会社のサイトに辿り着いたという。

「すごく安く借りられる車があった、琴浦に借りに来たのが最初でした。それから4回くらいは借りに来て、県外の大学生が何度も来るから覚えられて、上田さんに『飲み会に来てませんか?』と誘われました」

それが鳴り石の浜プロジェクトが定期的に行う「鳴り石

BAR」だった。初対面の中で温かく出迎えてくれた琴浦町の人たち。その出会いはとても新鮮で、出崎さんが人生の選択をする際の大きな理由になった。

「広島だと人との距離感ってそんなに近くないから、素敵な町と人たちがだなぁと思いき、好きな町で働くのもいいなと思ったのと、車屋が地域の活動をしていることにも興味を持ちました」

上田さんにとっても、初めて大卒新卒を採用することになった。

「何が起るかわからないものですよ(笑)。でも、ブランドとか収入とかで仕事を決めるんじゃない、彼のように自分の幸せを軸に働く人が、これから琴浦に来てもらえたらいいなと思って、採用することを決めました」

## 肩の力を抜いて、ゆるく続ける

何事も、始めることよりも続けるの方が難しいと言われるが、ポレポレの活動は、続けるための「ゆるさ」を大切にしている。

「組織を作ること考えたんですが、スピード感がなくなったり、しがらみが出てきたりもする。制約や縛りがあるよりも、『できることをできるときでいいからやる』くらいの気軽さも大切。まちづくりの基本は『楽しいこと』だと思っんです。難しいことじゃなく、楽しいことを共有して、みんなが元気になるのがいいですね」

そう話す馬野さんは、会社経営の傍ら、毎月一回の定例会を欠かさず計画し、実行してきた。年間10人程度は新規の移住希望者がポレポレを訪ね、ゆるやかに接点を作ってきた。

「この10年で町内にもコーヒー屋で起業したり、新規就農をする人がいたり、おもしろい人が増えてきたと思います。いろんな人を受け入れ、まちが活性化していけばいいと思います」

出崎さんは、広島県の友人とも琴浦町の方言で話すほど、すっかり町のことが好きになったという。

「ここでは、他の人ができないことを経験させてもらっています。車屋の仕事だけでなく、地域の活動もそうだし、日々違うことがたくさん起きる。毎日本当に楽しいですね」

これからも、ポレポレな暮らしを求めて、ゆるやかに、活動は続いていく。



### 鳴り石の浜プロジェクト

Webサイト Facebook

所在地／東伯郡琴浦町赤碓1927-1  
赤碓ダイハツ有限会社内  
連絡先／電話：090-3639-7527  
メール：info@nariishi.com



### 琴浦ポレポレな暮らし

Facebook

所在地／東伯郡琴浦町赤碓1840-1 馬野建設株式会社内  
連絡先／電話：090-1330-1894  
メール：shin@umano.co.jp (会長 馬野慎一郎)



# 背中を支える環境が、誰かの道を切り開く

[西部] 江府町

人生には大きな転機となる出会いがある。セカンドキャリアを妻の地元・鳥取県で築こうと移住した遠藤明宏さんにとって、江府町で移住支援を行う「NPO法人こうふのたより」の存在は大きかった。

全国的にも知られる「奥大山の水洗い珈琲豆」は、今や地元を代表する商品の一つとなっている。一步を踏み出す人と、その背中を支える人がいて、夢は花開いていく。



NPO法人 こうふのたより

末次 多衣子さん

奥大山の水洗い珈琲合同会社

遠藤 明宏さん

## 妻の地元で、人生をかけた挑戦



「関東を中心に都会生活が長かったのですが、定年後は妻の実家がある倉吉市で、のんびり暮らすのもいいかなと思っていました。そこで何をしようかと考えたとき、社員時代のスキルを活かすか、趣味を活かすか、そのどちらかしかないと考えたんです。そこで選んだのが趣味のコーヒー焙煎でした」

「あるとき、水で洗った生豆を焙煎すると雑味が消えると知り、実際に試してみたら、本当にすっきりした味になったんです。これを全国のコーヒー好きの人に届けることは、残りの人生をかける価値があると思えました。そこで重要になるのが、良い水があることでした」

目をつけたのが、全国的にも知られている江府町の奥大山の水。ただ、住まいがある倉吉市から江府町までの距離を調べてみると、1時間半近くかかることを知り、「往復3時間の通勤なんて、歳をとってきた私には無理だと、その時は思いました」

泣く泣く諦めていた矢先、待っていた出会いが遠藤さんに一筋の光をもたらした。



## 諦めない気持ちと、 運命の出会い



移住前に住んでいた大阪府で、鳥取県の移住相談会が開かれていて、情報収集に何度か通っていたという遠藤さん。6回目の参加で出会ったのが「NPO法人こうふのたより」の末次さんたちだった。

「コーヒーの焙煎がしくて江府町が気に入ったけれど、距離で諦めたという話をしたら、スタッフの方が『関金方面からの違うルートだったら50分ですよ』と教えてくれたんです。『えっ、そうなの！』って。そこで、江府町でやることに決めました」

こうふのたよりも全面的に協力し、遠藤さんは起業に向けて



動き始めた。一番困ったのが場所探し。こうふのたよりが町内を駆け回って空き家や空き店舗を探すもなかなか見つからず。

大阪にいながら末次さんたちに頼ってばかりで、自らが足を動かさなかったのを猛省し、遠藤さんも覚悟を決めて移住。最後の頼みの綱だと思って役場に打診した場所も断られ、「万事休すだと思っただ」と振り返る。

「でもね、神様が一番適した場所に導いてくださるんだと思うんです。役場の人からの提案で、旧米沢小学校を紹介してもらいました。その一室がもともと理科室でした。実験用にガスの元栓はあるし、水道もある。ここは焙煎するのに最高の場所だと思いました」

## 幸せを応援し、 広げる豊かさ



遠藤さんの挑戦があるのは、こうふのたよりの存在が大きいです。開業前には、余っている事務所のデスクを貸し、江府町のことを知らない遠藤さんを手厚く支えた。

「地元の間関係も知り尽くしているし、発注業者の紹介まで、本当になんでもお世話になっていきます。都会では考えられないほど親切にしてもらえない。なんだこのオアシスみたいな場所は」と驚きました。今があるのは、こうふのたよりののおかげですよ」

こうふのたよりは、2018年に設立。町から委託を受け、移住定住の支援や空き家バンクの運営をしていて、たくさんの方の移住希望者に寄り添ってきた。

定期的に発行している「こうふのたよりチラシブック」も町内で大人気。移住者の方に記事を書いてもらい、町内の人たちの情報交換に役立てている。

「私自身が結婚で神戸市から来て20年。この人たちに本当に良くしてもらいました。家におかずを届けてくれる、そういう優しさが当たり前にある町。だから今度は私が遠藤さんみたいに頑張っている人を応援する

ことが、一つの恩返しかなあと思っているんです」と話す末次さん。出会った人同士、その人にとって一番幸せなことは何かを考えるという。その気持ちが遠藤さんの背中を押しした。

「この人たちだからこそ、行ってみようと思えました。話を聞いてくれ、懐に入ってくれる。そんな感覚があったんです。僕にとってこうふのたよりは『便利』ではなく『頼り』です」

### 奥大山の水洗い珈琲合同会社

所在地/日野郡江府町美用530  
旧米沢小学校理科室内  
連絡先/電話: 0859-72-3251  
メール: okudaisen@washed-coffee.jp

Webサイト



Instagram



### NPO法人 こうふのたより

所在地/日野郡江府町江尾2076-4  
ちろりんハウス [JR江尾駅] 2階  
連絡先/電話: 0859-72-3122  
メール: kofunotayori@gmail.com

Webサイト



Facebook



Instagram



地域を元気に  
したい!

# 「もうちゅう11」 の挑戦

鳥取県立倉吉東高等学校2年

西岡 美咲さん



石賀 葵さん

鳥取県立倉吉東高等学校2年

MouChu11

今回は子年と丑年生まれのメンバーを中心に  
倉吉市小鴨地区で活動している高校生地域活動グループ  
「もうちゅう11」の皆さんにお話を伺いました。



これまでの活動内容について教えてください。

石賀さん

「もうちゅう11」は地元の小鴨地区を盛り上げたい、元気にしたいという  
想いをもった子年、丑年生まれの高校2年生11人で結成したグループです。  
今年はまだ4つの活動をしてきました。おがも笑顔のまつりでは司会  
をしたり冷やしうどんの提供をしたりしました。おがもサマースクールでは  
小学生を対象に夏休みの勉強をサポートする企画に関わりました。去年ま  
で行っていなかった自由研究もサポートしました。

西岡さん

他にも手話パフォーマンス甲子園で来場者への倉吉クイズの出題や缶  
バッチ作成ができるブースの出展、地区の文化祭では出し物をしました。



おがもサマースクール



## Q 活動を始めたきっかけについて教えてください。



地区文化祭

### 石賀さん

元々地元に着はありましたが、地域でイベントがあっても自分達の世代は対象ではないような気がして、これまではあまり参加することはありませんでした。だったら若者ならではの視点で企画ができないかなと考えようになりました。

そんな時に公民館のチラシで小鴨をもっと元気になりたいと色々な活動をしている高校生地域活動グループの「ししGAMO7(シシガモセブン)」のことを知りました。それがきっかけで自分でもグループを立ち上げたいと思うようになり、友達に声を掛けてグループを立ち上げました。

### 西岡さん

学校で探求活動の発表があり、その中で「ししGAMO7」の活動を知りました。私も何か地域でしたいけど、なかなかできずにいたのですが、先輩の話聞いて参加してみたいと思うようになりました。最初は小鴨の人だけでやっているようにみえて、小鴨でない自分は参加できないかなと思っていたのですが、参加したいことを伝えると快く受け入れてくれました。



## Q 活動を通してご自身や周りの変化があれば教えてください。



### 石賀さん

より一層小鴨地区の人の温かさを感じるようになりました。イベントでは親子連れの方や色々な世代の方が私たちの活動を応援してくれます。小鴨は子どもと大人の繋がりが強い地域だなと思います。

自分自身の変化としては、自分のしたいことを企画したり、表現したりする力が付いてきたかなと思っています。今までは何かをやってみたくても、実行に移せないことが多かったですが、グループ皆で話しあうことで色々なことができるようになりました。

### 西岡さん

これまでは人に頼るのがちょっと苦手でした。このグループでは自分だけではできないことでも相談し、頼るとどんどん出来てしまいます。グループでの活動を通して人に頼ることの大事さを学びました。

ただ、活動の時に誰かに頼り過ぎて一人に負担が集中するのは良くないと思っています。そこでグループに絶対的リーダーを置かないようにしています。年間計画を立てて役割分担し、企画ごとで中心になる人は決めますが、負担が集中ないようにみんなで関わりながら活動できるように工夫をしています。



おがも笑顔のまつり

## Q 今後の活動の予定について教えてください。



### 西岡さん

もうちゅうの活動はすごく楽しいです。また何か参加する機会があれば参加したいと考えています。

### 石賀さん

直近の活動として、冬にはイルミネーションのイベントを実施します。地域の人に少しでも冬を楽しんでもらおうと企画しました。

活動を通して、私が思っている以上に地元を大事に思っている人が多いと感じました。出来ればこの活動を下の世代にも引き継いでもらえたらいいかなと思っています。また地元の方から小鴨の魅力を知るカルタをつくりたいという意見がありました。私も小鴨の文化や自然に興味があるのでそういったカルタづくりを次の世代につなげていけたらと思っています。

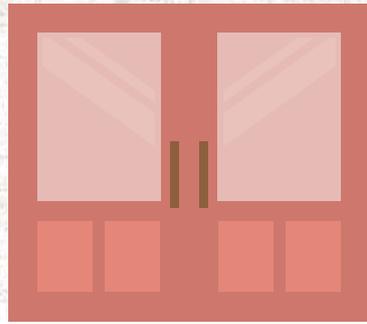


イルミネーション

Good!!

### 編集後記

2月22日、中国地方に5年ぶりの春一番が吹き荒れました。50センチもの積雪があった街の景色も、今では着々と春の色彩を帯び始めています。厳しい冬を越え、満開の桜の下で始まる新たな出会いが、皆さまの明日を明るく照らす希望に満ちたものとなりますように。  
(小林 綾子)



## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGs: 持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)  
2030年までに達成すべき17の国際社会共通の目標  
169のターゲットで構成

当センターは、SDGsに取り組む個人、団体等の情報交換・発信の場となる、「とっとりSDGsプラットフォーム」の事務局として、SDGsを推進しています。



てとり「てとり」はとっとり県民活動活性化センターの愛称です。

### 発行：公益財団法人 とっとり県民活動活性化センター

発行人：毛利 葉  
編集人：小林 綾子  
取材・編集：藤田 和俊（合同会社僕ら）、寺坂 純子、椿 善裕、池淵 菜美、谷 祐基、世瀬 あけみ、山部 さおり  
写真：藤田 和俊（合同会社僕ら）  
写真提供：公益財団法人ふるさと鳥取県定住機構、鳥取ふるさとUI（友愛）会、シネマドア鳥取合同会社、  
夢浦ボレボレな暮らし、鳴り石の浜プロジェクト、NPO法人こうふのたより、  
奥大山の水洗い珈琲合同会社、小鴨コミュニティセンター  
デザイン：山本印刷株式会社

「てとり」  
バックナンバー  
はこちらから。



2026年3月13日発行(第24号)

お問合せ/公益財団法人 とっとり県民活動活性化センター URL <https://tottori-katsu.net/>  
〒682-0023 鳥取県倉吉市山根557-1 パープルタウン2階  
TEL 0858-24-6460 FAX 0858-24-6470 E-mail [info@tottori-katsu.net](mailto:info@tottori-katsu.net)